



異世転生

おしに

OSHI NI OSARERU ISEKAI TENSEI
SENNOU x KAIRAKU x
KYOIZON ECCHI

洗脳 x 快楽 x

共依存えっち

▼月埜木 六花(つきのき りっか)

『ナイトメア・スレイヤーズ』に

登場するキャラクター。

面倒見が良く穏やかで優しい性格だが、
一緒に暮らす鹿乃に対して異常に過保護。

あまり物事に頓着することが少ない反動か、
時に周囲が震え上がるほどの執念深さを見せる。



▲白石 鹿乃(しらいし かの)

転生前は普通のOL。

『ナイトメア・スレイヤーズ』の世界に転生後は
『霊術師』として六花と暮らしを共にしている。

転生前も後も六花が人生最愛の『推し』だが、
今は六花への想いを隠している。





もう俺から
離れようなんて
言えないね

まんこ
俺の形に
なっちゃった

ほら

ふに...

すめ



鹿乃は安心して
俺に守られて
いればいい

あ
前世的
ときみたいに
俺を推し続けて
くれるだけで
いいんだよ



俺の推しも
きみひとりだけ



鹿乃の
過去も未来もすべて

俺のものだ――

『白石鹿乃の推しは月埜木六花』





今日の飲み会
これ着ていい？

前に兄さんが
プレゼント
してくれたやつ！

六花兄さん



駄目だ
肌の露出が
多すぎる



だって…

キラ…



そんなの
いけないけど…

ただの飲み会に
必要以上に可愛く
していくことは
ないだろう

…それとも
可愛い鹿乃の姿を
見せたい男でも
いるのかな？

ああ
画面越し
じゃない
ナマの六花

やっぱ最高…♡

「推し」

彼が頑張ってるから
自分も頑張れる
彼が居るから
生きていられる—

そんな
私の「推し」は
かつて
二次元にいた



危険なナイトメアを
討伐するための
国家精鋭部隊
『オネイロス』

そこで
プレイヤーが
司令官となって

配下の部隊員を
サポートし
信頼関係を築きながら
戦場を駆け巡る
という育成ゲームだ

前世の私が
推しと出会った
運命のゲーム
『ナイトメア・スレイヤーズ』

舞台は
摩訶不思議な力が
科学と混じり合って
発展を遂げた日本





自分は
恋をすると
周りが見えなくなる
人間だったのだ



会社も

人間関係も

現実のすべてを
疎かにしていて――



――これじゃ、だめだ

あなたのことが
好きだった…





そうして
私はナイトメア・
スレイヤーズの世界に
転生した

7歳の時
14歳の六花と
出会った瞬間

前世のことを
思い出した

六花は
元・オネイロス
隊長である
祖父のもとに
修行に来ていた

それから
私たちは
兄妹のように
育てられた



十八歳で
身寄りがなくなった
私を

六花は優しく
受け入れてくれた

六花はもう
二次元のキャラクタ—
なんかじゃない

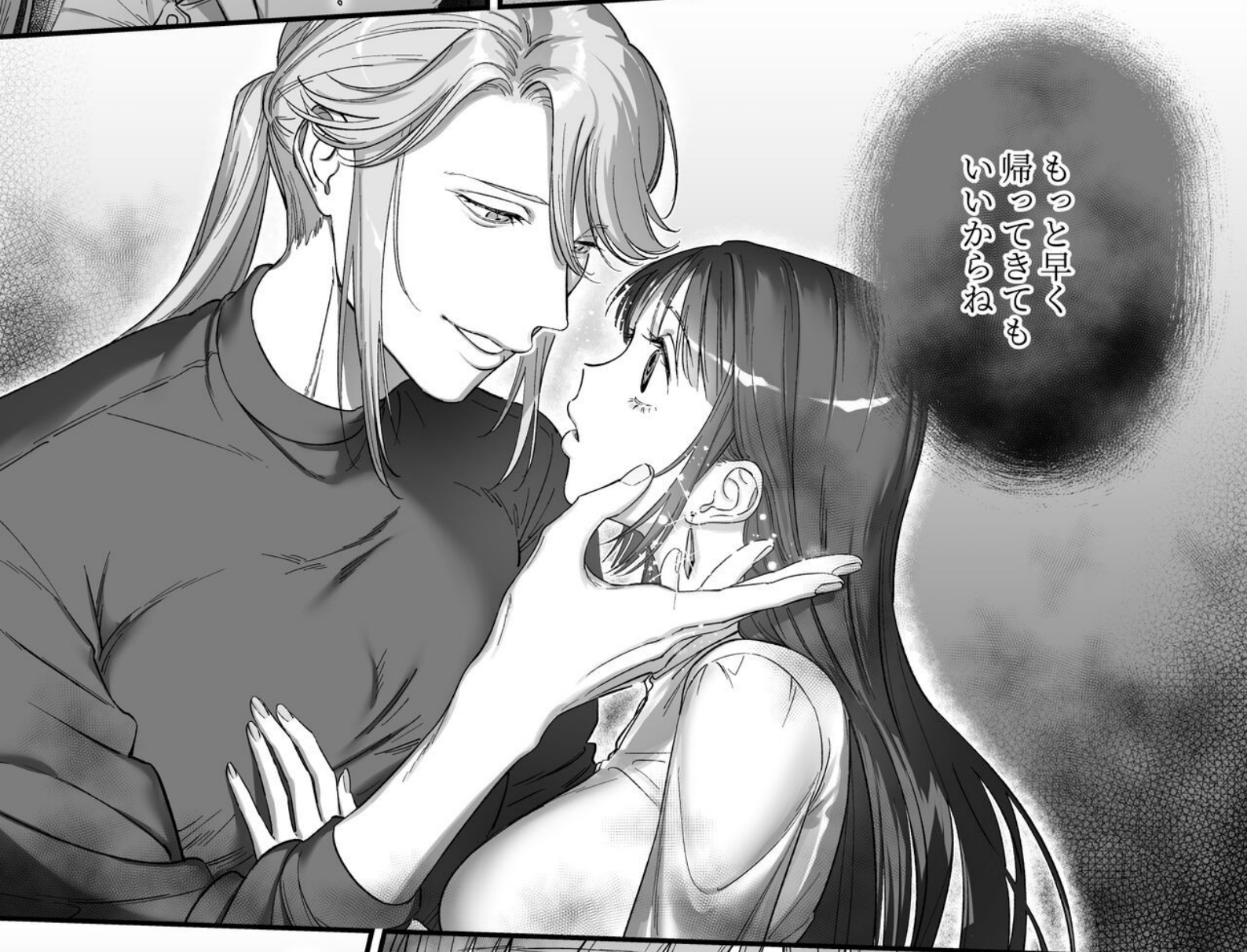
私の大切な
家族なんだ—

ふふ
どうしたの

甘えなくなった？

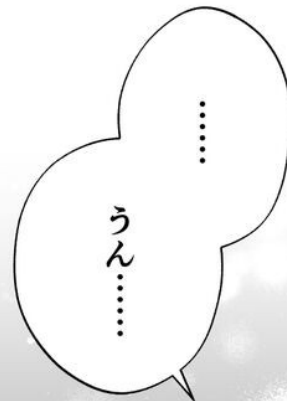
おいで







反抗するなんて
なにを馬鹿なことを
考えていたんだろう...



うん……



それじゃあ
気をつけて
行っておいで



ほんとうだ
ってばく

あはは…

やつぱこの世界
私の知っている
ナイスレとは
ちよつと違う



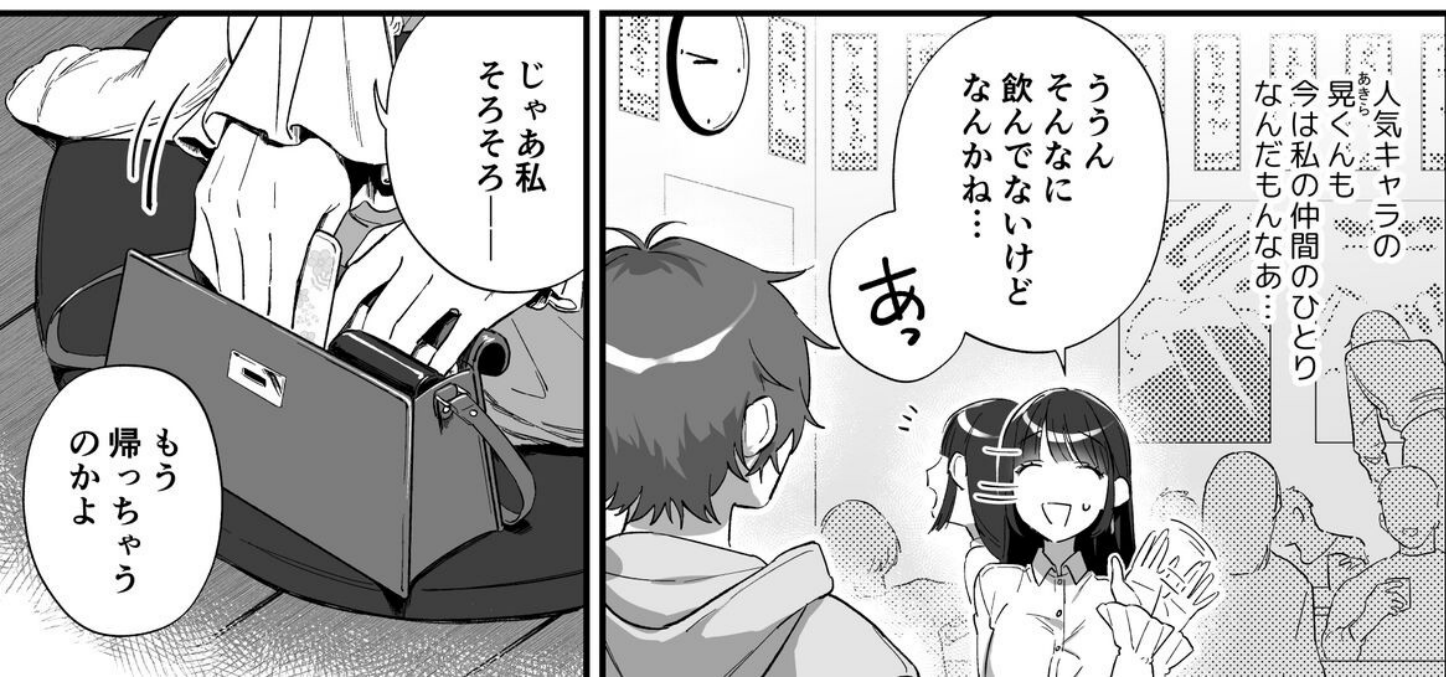
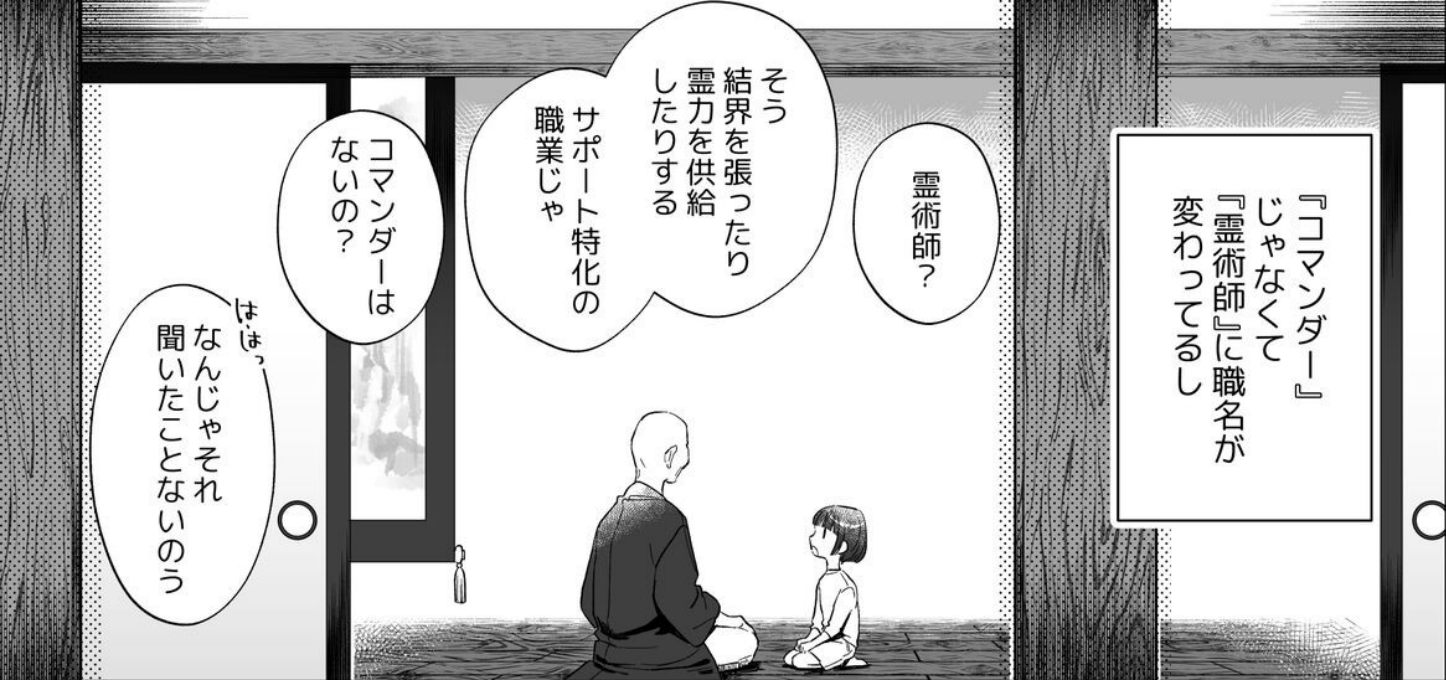
私に？

私も
そんなに
得意じゃ
ないよ？

またまた
そんなことく



ねえねえ
鹿乃ちゃん
今度結界の張り方
教えてくれない？











私はともかく

兄さんも私に
依存してる
っていうの？

まさか



でも
大丈夫だよ

だって
あの六花兄さん
だもん



ふふ
心配してくれて
ありがとう





そいつを
庇うの？

そ
そんなんじゃ……



もう
いいでしょ？

六花兄さんは
過保護すぎるよ

これじゃあ
いつまで経っても
独り立ち
出来ないじゃない



独り立ち？



やつば
機嫌悪く
なってる…
でも！

そ、そう！

私、そろそろ
家を出て行こうと
思ってるの

私たち
いい加減
離れなきゃ…

それ、誰かの
入れ知恵か？

ち、ちがう
最近ずっと
考えてたこと

私はもう

一生
兄さんを
妹として
慕うと決めた

一人で
暮らしていける
くらいの貯金は
できたし

そろそろ
兄
六花離れの時だ

ほんとうは六花と
離れたくないけど…

うう…

……そうか





きみは二度も
俺を捨てるのか



二度？
捨てる？



何を
言ってるの…？

わ、私
兄さんのことを
捨てた覚えは
一度も…ないよ

ああ
今世ではね

え？

もっと
わかりやすく
言おうか？

アプリを消して

俺の存在を
きみの中から
消そうとしただろう

!!

なんで
そのことを……

きみにとっては
ただのゲーム
だったろうが

俺や
他の隊員に
とっては
違った……

まあ
これは俺の
前世の話だよ

前世……？
どうして……？

まあ、いい

いまのきみは
こうして
俺の腕のなかについて

逃げだそうと
してもすぐに
捕まえられる
距離にいる

や、

やめて



どうして？

俺のことを
愛していただろう

現実の
俺を知って

心変わり
したかい？

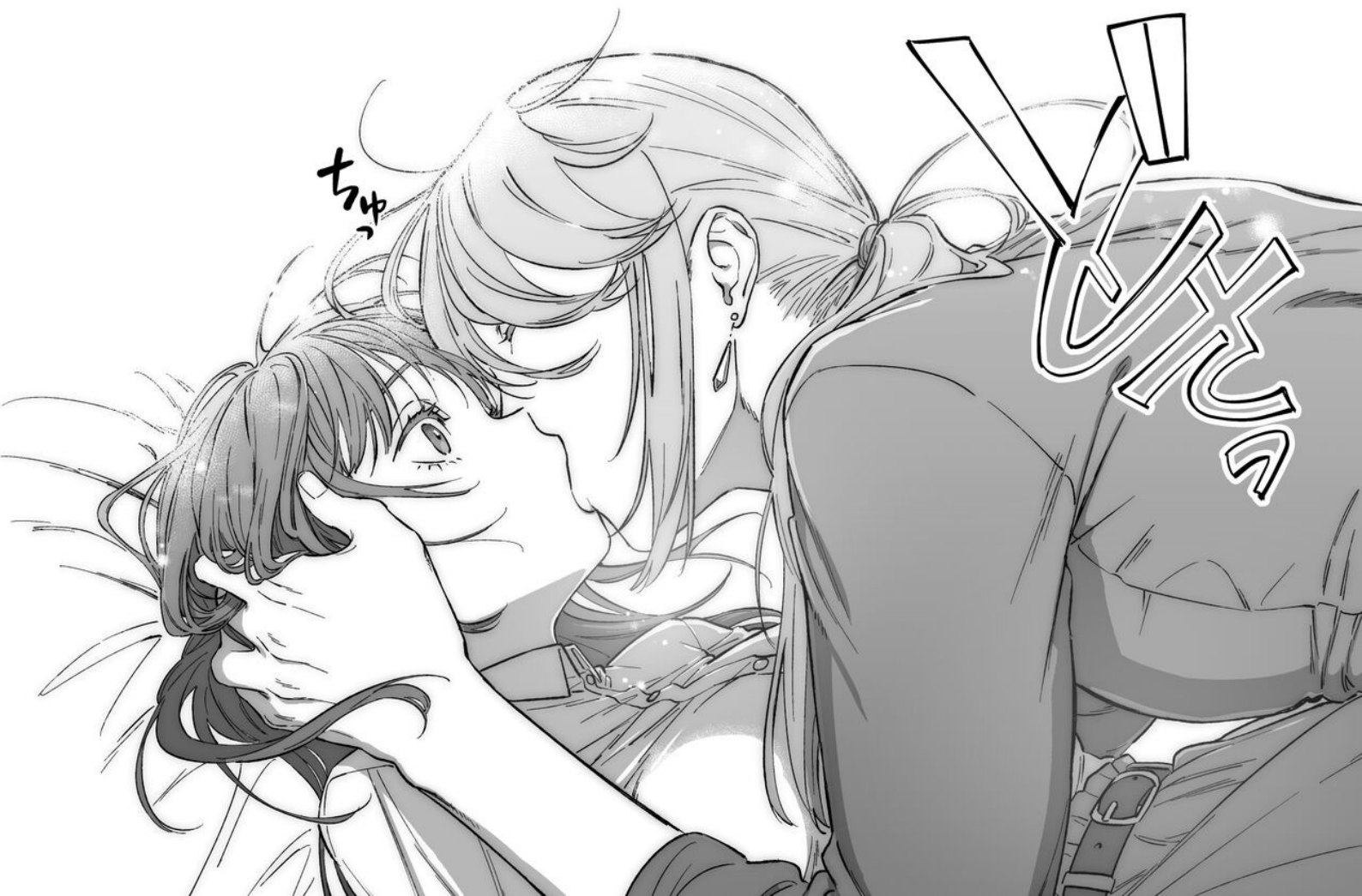
そんなこと
ない！

六花はいまでも
私のいちばんの
推しだよ！



でも…
このままじゃ
前と同じで

六花のことしか
考えられなく
なっちゃう



ちゅ

ビュッ

そのなにか
いけないのか
さっぱり
分からないな

愛する者同士が
一緒にいることは

なにも
不自然じゃないよ

え……

トリキッ

知らなかった？

俺はきみを
愛している

前世のころから
ずっとね

でも
今世での私と六花は
兄妹みたいなもの……





いの子だから

ね？
鹿乃





六花も
不安だった
のかな

前世みたいに
私に捨てられるん
じゃないかって



六花
ごめんね
大好き…

ああ
俺もきみが
好きだ

ま
ゆ



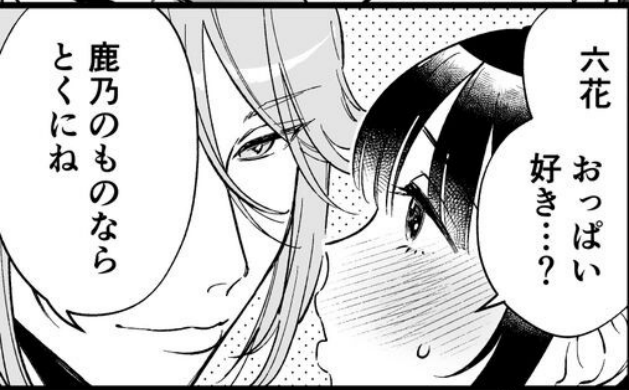
じゃあ
服を
脱ごうか

え…

それって…



いまから
きみを
抱くってこと









答えて

もしかしてここ
一人でいじってた？

鹿乃
いきやすいんだ

……っ



うん……♡

六花に
触られるのを
想像しながら

ひとりで
クリいじっ
てたの♡♡



へえ
前世でも？

……はい♡

鹿乃は
いやらしい子
なんだね





ぐわんぐわん

だめ

ぐちゃぐちゃ

ぐわんぐわん

可愛いよ

ふ、
鹿乃
可愛い

あー

あ...



ドキッ

これが…

六花の
生おちんぽ…♡

ふふ

我慢出来ない？
腰揺れてる

だって…♡





ビクビク
してるう

おつき

おちんぽ

あえ



おかしくないよ
当然のことだ

あえ…？



ん
軽くいった
みたいだね

はっ
なんれ
はじめてなのに
なんれ痛くないの♡

はっ
きもちいっ♡

はっ
わたしのからだ
おかし…っ♡♡♡



寝ているあいだに
目覚めない
暗示をかけて

ずっときみを
犯し続けて
いたからね



私の
おまんこで…

勝手におちんぽ
ずぼずぼ
してたの…？

ひどいよお…

へえ？



いつ
から？

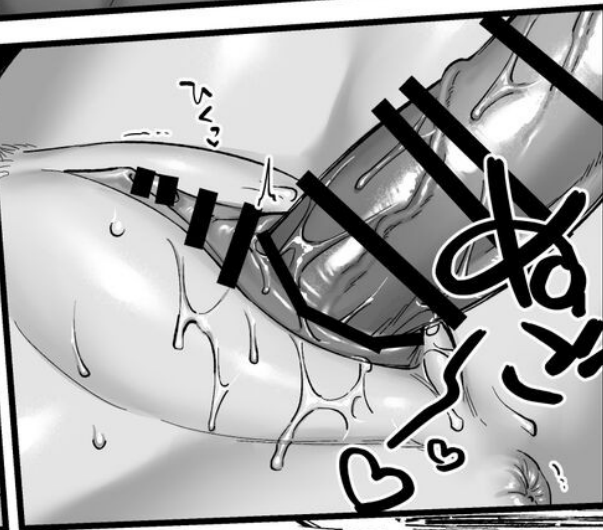
きみと暮らすように
なってるから
ずっとだよ

そ、そんな…♡

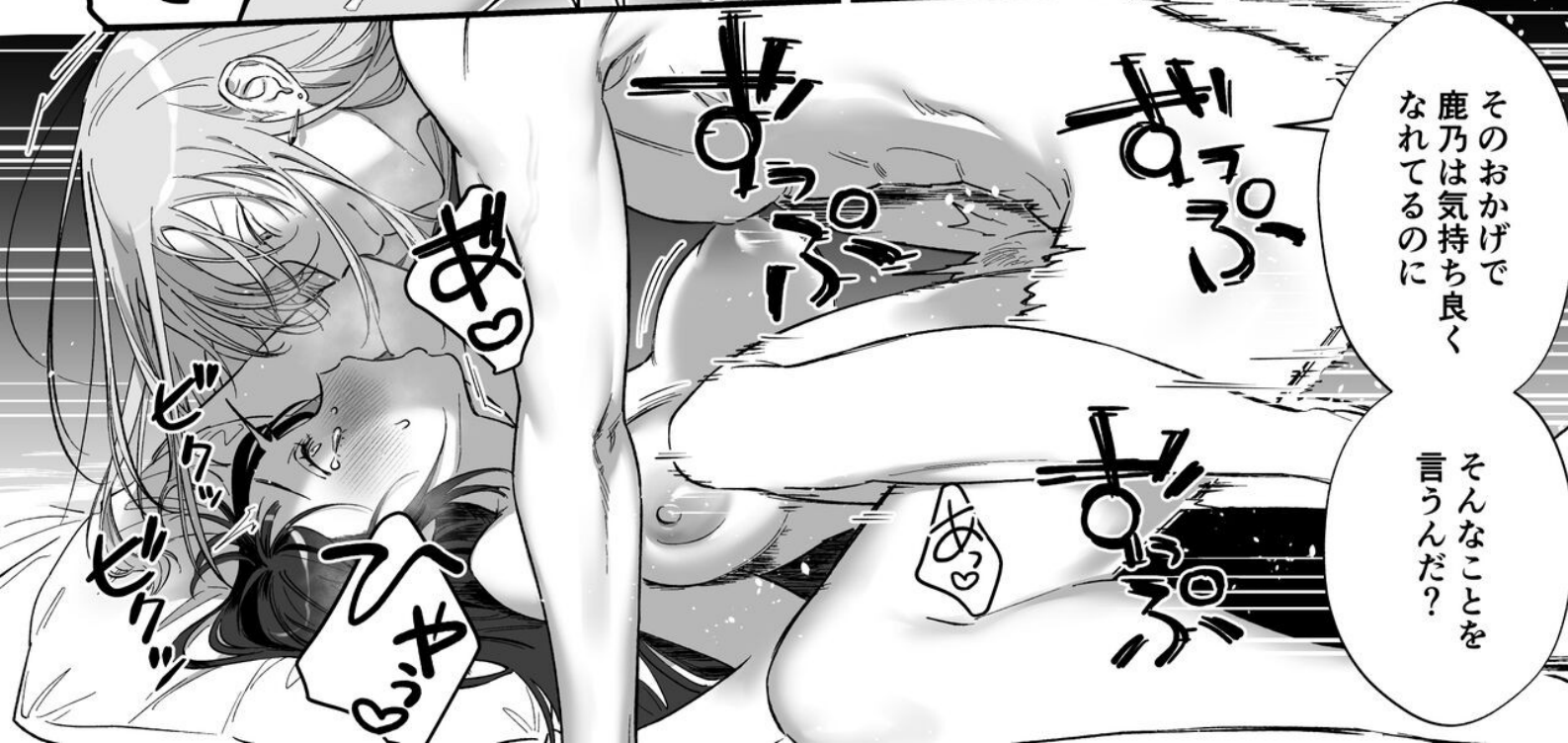


おちんぽ♡

おっ♡
?!?!♡
♡♡♡



♡♡♡



そのおかげで
鹿乃は気持ち良
くなれてるのに

そんなことを
言うんだ？

おちんぽ♡

おちんぽ♡

おちんぽ♡

♡♡♡

お♡

お♡

お♡



ひどいのは
どっちかな？

そつだ...♡
この気持ちよさは
六花がじっくり
教え込んでくれたもの...♡



私が痛い思いを
しないようにって...♡

目覚めた状態で
ハジメテ繋がる
ときに

あ♡



ごめんなさ♡
ひどいのは
私れす♡♡♡

私のおまんこ

六花のおちんぽで
教育してくれて

うん
きちんと
お礼を言えて
えらい

ありがとうございます♡♡♡

ご褒美を
あげないとな







もう
ずこずこ
しないれえ

いった

いったから

おちんぽ
おしまいに
しれえ

らめらめらめっ

こんな

気持ちいいの

ぱちゅん

ぱちゅん

ぱちゅん

ずほ

ずほ

ずほ

ぱちゅん

ぱちゅん



はっ
はは

か、わい、はあっ

意識のないきみを
犯すのも良かったけど

やっぱり
声が聞こえるのって
いいなっ

まって
おつきくしないで

なか
だめだから
~~~~ッ!?

ビクッ

ハッ

ビクッ

ハッ



はあ、大丈夫

いつも  
してたか、らっ

んっ  
そんな

ひどいっ

気持ち良く  
なるだけだよ

なにも怖くない

あゝ  
あゝ

ブッ

ブッ

ブッ















六花……♡♡♡

はい♡♡♡



これからは  
俺への好意を  
隠さなくていい

存分に俺を  
「推す」といいよ



やっぱり六花は  
私の唯一で最高の推しだ……♡



〈前世での俺〉と  
〈今世での俺〉に  
大した違いはない

容姿は同じだし

生い立ちも同じ



大きく違うのは  
前世で俺の  
〈コマンダー〉  
だった鹿乃は

〈霊術師〉として  
俺と同世界に  
存在していること



前世の時

「スマホを通して  
異世界から  
霊力供給を行う」  
という提案が  
上層部より通達された



霊力を  
供給してくれる  
ひとたちは  
俺たちを  
ゲームキャラと  
認識するらしい

そのゲームを  
プレイすると

プレイヤーの霊力が  
こちらの世界に  
送り込まれる



プレイヤーが  
俺たちの  
能力や情報を  
知るように

俺たちも  
彼女たちの情報を  
知る権利があった



コマンダーネーム  
「Kanoco」  
本名「白石鹿乃」



Kanoco  
本名：白石鹿乃  
年齢：23歳 女性  
趣味：ベッドでごろごろする  
コンピューターゲーム  
カフェで本を読む  
食べ物：栗羊羹とそら豆

彼女の霊力は  
何故だかいつも  
心地いい

…どんなひと  
なんだろう





かのこ  
@kanoco\_

会社でミスしたー  
自分が低脳すぎてイヤになる。  
怒られたけど六花に元気もらって  
頑張る…



かのこ  
@kanoco\_

今日は六花の誕生日！  
ケーキとご馳走をつくりました！  
六花とお揃いの天然石のピアスに  
まで手を出して、そのためにピアス  
穴まで開けた。推しという存在はす  
ごい。  
今月の出費えぐいけど気にしない！



かのこ  
@kanoco\_

最近ナイスレプレイしてると  
いやに疲れるー。寝不足かなー



いますぐ  
きみの元へ行って  
抱きしめたい



きみが  
この世界にいれば  
俺が養って  
あげるのに



きみが  
膨大な霊力を  
俺に与えてくれ  
て  
いるからだよ



…(推し)  
彼女がいるだけで  
生きていることに

意味をもらえる  
ような存在か



かのこ  
@kanoco\_

六花は唯一にして最愛の推し。

47 フォロー中 10 フォロワー



だったら

俺の「推し」は  
間違いなく彼女だ



かのこ  
@kanoco\_

ナイスレ、もう止める。  
六花とお別れする



かのこ  
@kanoco\_

×月××日、  
アプリを消去します



何故？  
他に推しが  
出来たのか？

現実に好きな男が  
出来たのか？

——俺に  
飽きたのか？







——彼女は本当に  
俺を捨てようとして  
いる

ここまで  
俺のなかに  
踏み込んできて

勝手に  
縁を切るなど  
許さない



——ああ、神様

願わくば  
白石鹿乃を  
俺と同じ世界に…

同じ時代に  
転生させて下さい





わたしの  
あなたの  
ことが

大好き……♡

俺も  
愛しているよ

鹿乃

それは一種の  
呪いかもしれない

そうすれば  
来世もその次も  
俺たちは  
何度も巡り会い



互いを好きになる

『月埜木六花の推しは白石鹿乃』



私の性癖にしか配慮していない小説を  
ありがたくもコミカライズして頂き、感無量です。

私は小説を書く時に頭の中で映像化はせずに  
すべて文字で場面を想像するタイプなので、  
「へ～、このときこんなことが起こってたんだ～」と感動しながら  
出来上がった漫画を読ませて頂きました。

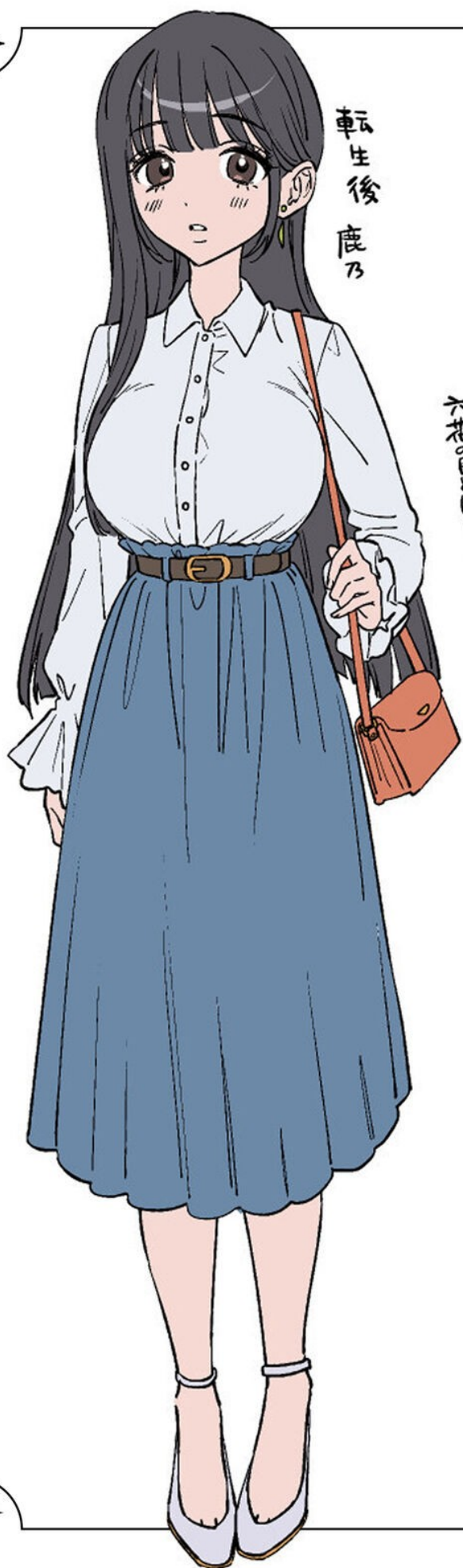
希之本先生をはじめコミカライズに関わって下さった方、  
そしてこの本をDLして下さった読者のみなさま、ありがとうございました！

花房アルコ

作画を担当させていただきました、希之本昨日と申します。  
こういった形で漫画を描かせていただくのは初めてで、とても緊張いたしました。  
このお話に関わらせていただいた事、鹿乃と六花の二人を描かせていただいた事を  
とても光栄に思っております。

希之本昨日

企画制作：いきはよいよい

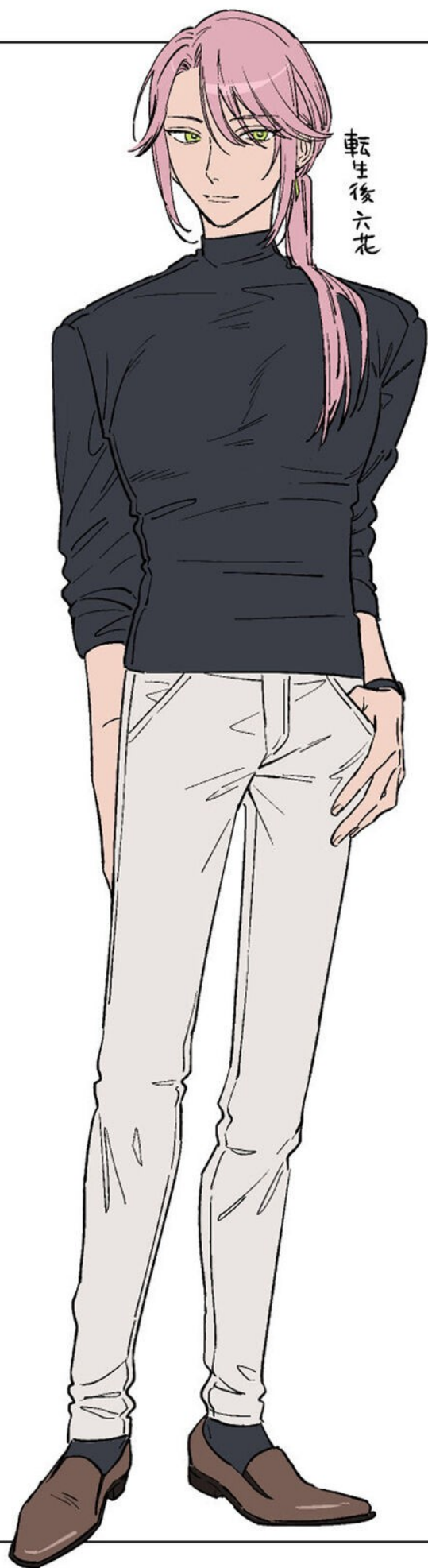


# 白石 鹿乃

(しらいし かの)







転生後六花

# 月埜木 六花

(つきのき りっか)



軍服+キモノ+コート  
ナイスシ衣装